



東北学院大学

博物館年報

2019

Vol.11



I N D E X

| | |
|-----------|----|
| 施設概要・組織 | 1 |
| 展示活動 | 2 |
| 資料の収集整理保存 | 12 |
| ワークショップ | 14 |
| 刊行物・広報 | 16 |
| 教育活動 | 18 |
| 利用実績 | 19 |
| 運営 | 20 |
| 利用案内 | 21 |



施設概要

東北学院大学博物館は、文学部歴史学科をはじめとした本学の最前線の研究成果を一般に紹介するとともに、博物館学芸員の教育の場として活用することを目的に、2009年にオープンした。杜の都仙台のメインストリートの一つ愛宕上杉通りに面しており、市民に親しまれる大学博物館を目指している。

施設は鉄骨平屋建で、建物面積は約 300 m²である。展示室 (180 m²) のほか、収蔵庫、実習室、事務室、多目的トイレ等を有し、24時間の空調、機械警備等によって貴重な資料等の管理環境を整備している。

展示の最大の特徴は、教員と学生が寝食を共にしておこなうフィールドワークや、実物資料を扱いながら歴史を読み解くゼミ活動での成果などをもとに、学生たち自身が展示を考え、実施していく点にある。考古遺物から民具、板碑、古文書、民俗芸能や祭りに関する記録映像など、展示されている内容はどれも、学生たちの驚きと発見の賜物である。

組織 (2019 年度)

職員

| | | |
|-------|--------|-------------------------|
| 館長 | 七海 雅人 | 文学部歴史学科教授 (2019.4～) |
| 学芸員 | 加藤 幸治 | 文学部歴史学科教授 (～2019.9) |
| 学芸員 | 永田 英明 | 文学部歴史学科教授 (2019.4～) |
| 学芸員 | 土岐山 武 | 嘱託職員 (2017.4～) |
| 事務職員 | 及川 純一 | 研究機関事務課係長 |
| 学芸研究員 | 真柄 侑 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士後期課程 |
| | 結城 智 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 横山 舞 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 石澤 夏巳 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 加藤 雄大 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 賀屋 由布 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 櫛田 公平 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 小林 美夏 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 高橋 伶奈 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |
| | 奈良輪 俊幸 | 大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程 |

展示活動－EXHIBITION

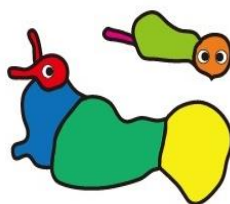
2019年度は、博物館の開館10周年記念展「開・首長の棺―福島県喜多方市 灰塚山古墳の調査成果―」をはじめ、企画展「KOREMITE5 常盤雄五郎と仙台年中行事絵巻」、歴史学科加藤ゼミを中心とした文化財レスキュー展（第21回～22回）などを企画・実施し、また博物館実務実習（館園実習）における成果としての縄文土器展、ゼミ活動紹介展示など、年間を通じて大小様々な展示会を開催した。またこれにあわせて、シンポジウムの開催、SMMA(仙台宮城ミュージム・アライアンス)事業への参加などのアウトリーチ活動なども手がけ活発に活動をおこなった。

開館10周年記念特別展

開・首長の棺―福島県喜多方市 灰塚山古墳の調査成果―

2019年6月8日～7月20日 東北学院大学博物館

この展示では、文学部歴史学科の辻秀人（博物館前館長）ゼミナールが2011年から7年間にわたって調査をした、福島県喜多方市灰塚山古墳の研究成果を紹介した。



©東北学院大学博物館

特別展キャラクター「じゅうぞう」 特別展キャラクター「ゆる首長」

特別展ポスター



©東北学院大学博物館



展示風景

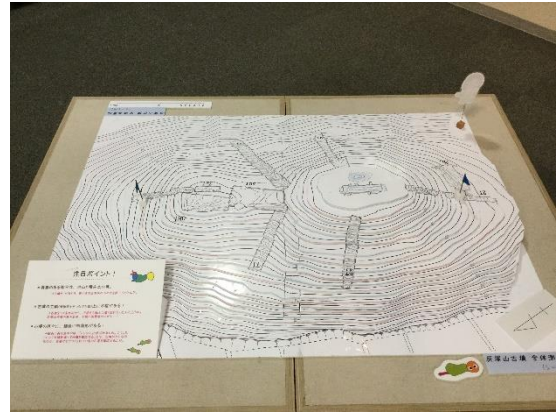


展示では、灰塚山古墳の調査で明らかになった、「古墳の姿と形」、「埋葬施設と副葬品」、「埋葬された人物」にスポットを当てて紹介した。

「古墳の姿と形」のブースでは、全長 61.2m の大型前方後円墳がどのように築かれたかや、後円部墳頂にて検出された埋葬施設の位置を紹介した。また、古墳の墳形や規模が視覚的に伝わるよう、手作りの墳丘模型を用意した。



展示風景



手作りの墳丘模型

「埋葬施設と副葬品」のブースでは、発見された 2 基の埋葬施設（木棺と石棺）ごとに、遺構の特徴や出土遺物を紹介した。

木棺の調査では、棺の大きさが 8m を超す大型の棺であることが判明し、棺の中からは青銅鏡と大刀、ガラス製の腕飾り、豎櫛群が発見された。1/2 スケールで展示した木棺の写真は、来館者の目を引き、その大きさに驚く人も多かった。また、東北地方では類例のない文様をもつ青銅鏡や、全国的にも非常に珍しい特殊な豎櫛群の展示は話題となった。



1/2 スケールの木棺痕跡の写真

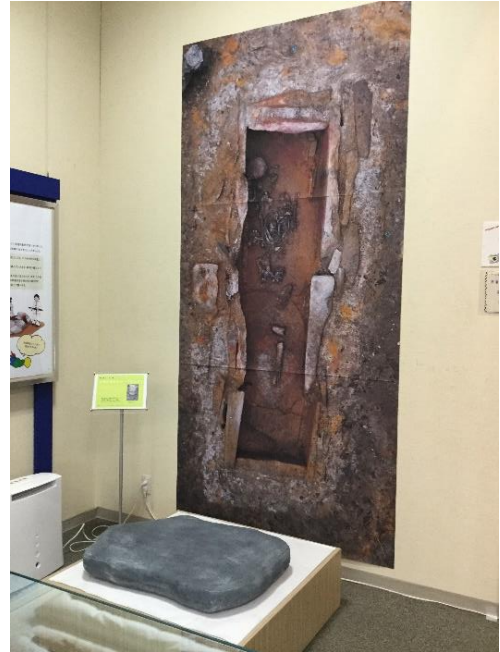


特殊な豎櫛群の展示

石棺の調査では、粘土と板石を多用した特異な構造をもつことが判明し、棺の内外から刀剣や鉄鏃（矢じり）といった豊富な鉄製武器などが発見され、棺の中からはほぼ全身に近い人骨が見つかった。展示室では、棺の蓋石を慎重に取り上げる様子を動画で紹介しつつ、実寸大の石棺の写真や、手作りの蓋石の模型を使った重量体験コーナーを設けることで、臨場感溢れる展示となった。

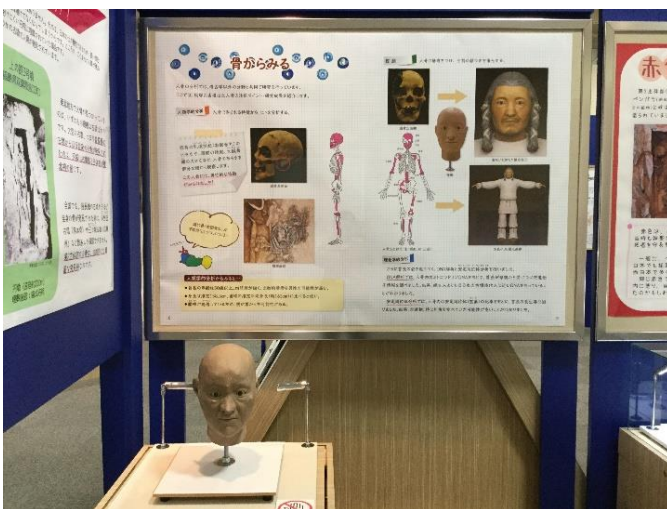


展示風景



実寸大の石棺の写真と、蓋石の重量体験コーナー

石棺の中から見つかった人骨は、生前はどのような姿で、如何なる生活を送っていたのかを他分野との共同研究によって追究し、「埋葬された人物」のブースでは、その成果を分かりやすく紹介した。特に、生前の顔つきを復元した「復顔」や、全身を再現した3D映像と等身大パネルを展示することで、古墳時代の人物の姿をイメージしやすいようにした。

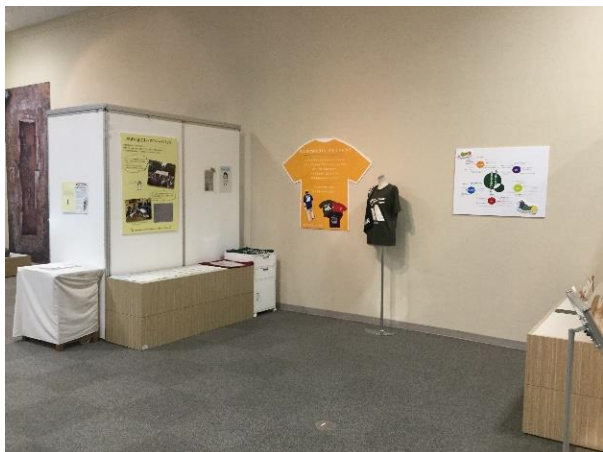


「復顔」の展示風景



全身再現の等身大パネル

調査の結果、灰塚山古墳が今から 1,500 年ほど前に築かれた大規模な前方後円墳であることが判明し、人骨を始めとしたたくさんの遺物の出土は多くの人の注目を浴びた。こうした歴史的な発見は、ゼミナール所属の大学生・大学院生が中心となって行った発掘調査によるものである。展示の最後には、発掘調査がどのように行われたかを紹介するコーナーを設けた。実際に調査に使った野帳や、作業着として作られたゼミ T シャツ、日々の自炊のメニューなど、“学生らしさ”を存分にアピールした展示は、大学博物館にしかできないもので、オープンキャンパスの時にも好評であった。



展示風景



展示風景

展示は、辻秀人教授監修のもと、考古学分野の学芸研究員を中心に、大学院生と学部生らが企画からポスター・図録作成、展示設営までを担当した。およそ 1 ヶ月半という短い期間の展示ではあったものの、来館者は 500 名を超え、好評を博して終了した。

(横山 舞・高橋 伶奈)



展示作業風景



開館 10 周年記念特別展「開・首長の棺—福島県喜多方市 灰塚山古墳の調査成果—」

記念シンポジウム「古墳時代王者はどんな人？」

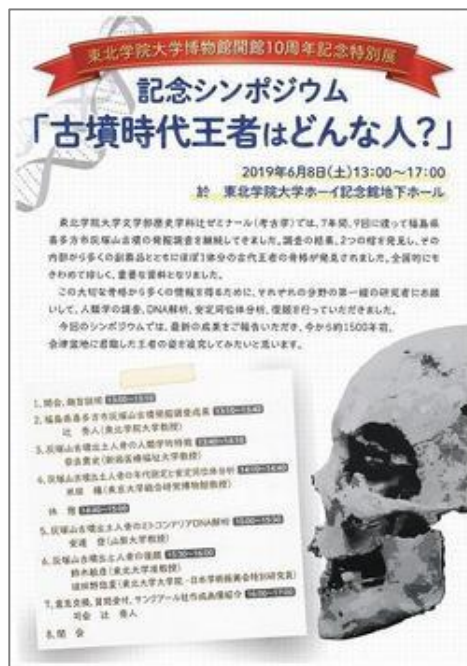
2019 年 6 月 8 日 (土) 13:00~17:00

於：東北学院大学ホーイ記念館地下ホール

開館 10 周年を記念したシンポジウム「古墳時代王者はどんな人？」が、特別展の公開に合わせて開催された。

■ プログラム (※所属はいずれも開催当時のもの)

1. 開会、趣旨説明
2. 福島県喜多方市灰塚山古墳発掘調査成果
辻 秀人 (東北学院大学教授)
3. 灰塚山古墳出土人骨の人類学的特徴
奈良 貴史 (新潟医療福祉大学教授)
4. 灰塚山古墳出土人骨の年代測定と安定同位体分析
米田 穰 (東京大学総合研究博物館教授)
5. 灰塚山古墳出土人骨のミトコンドリア DNA 解析
安達 登 (山梨大学教授)
6. 灰塚山古墳出土人骨の復顔
鈴木 敏彦 (東北大学准教授)
波田野 悠夏
(東北大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
7. 意見交換、質問受付、サンクアール社制作動画紹介
司会 辻 秀人
8. 閉会



シンポジウムのチラシ

文学部歴史学科の辻秀人 (博物館前館長) セミナールが 2011 年から 7 年間にわたって進めてきた福島県喜多方市灰塚山古墳の発掘調査では、2 基の埋葬施設 (木棺・石棺) が見つかり、双方から豊富な遺物が出土した。調査の結果、古墳が古墳時代中期 (およそ 5 世紀代) に築かれた大型前方後円墳であることが判明した。

このうち、石棺からはほぼ全身に近い男性人骨が発見された。古墳時代中期の首長墓から発見される人骨は非常に珍しく、約 1,500 年前の会津盆地に君臨した王者の発見は人々の注目を集めた。全国的にも貴重なこの歴史的発見は後に、人骨研究のスペシャリストによって、より詳細な分析や研究が行われ、その最新成果を公開する貴重な機会として、シンポジウムを開催することとなった。

シンポジウム冒頭、博物館の七海雅人館長（歴史学
科教授）は「博物館は文学部の学生が博物館学芸員資
格取得のための実技実習の場として利用され、また教
員と学生の研究成果を展示しています。現在は開館 10
周年を記念して灰塚山古墳の調査成果を展示してい
ますので、ぜひ足を運んでいただきご覧ください」と
挨拶をした。



報告を行った辻秀人教授（前館長）

報告では、最初に辻教授が発掘調査成果の全体像
を述べ、続いて新潟医療福祉大学の奈良貴史教授が
人骨の特長を、東京大学総合研究博物館の米田穰教
授が年代測定と安定同位体分析結果を、山梨大学医学部の安達登教授がミトコンドリア DNA 解析結果
を、東北大学大学院歯学研究科の鈴木敏彦准教授が人骨の復顔について報告した。

各種分析を行った報告者はいずれも、現代の古人骨研究に関して第一線で活躍する研究者である。それ
ぞれの立場から語られる王者の姿は現代人の想像を超えるものであり、会場に集まった人々は興味深そ
うに聞き入っていた。



会場風景



報告者

その後行われたパネルディスカッションでは、報告を行ったスペシャリストに加えて、鈴木准教授と
共に人骨の復顔に携わった東北大学大学院歯学研究科の波田野悠夏氏も出席し、会場から寄せられた質
問に回答された。また、復顔された古代王者が棺から蘇り、歩く姿を 3D 化したアニメーション（サンク
アール社制作）も上映され、盛りだくさんの内容であった。シンポジウムには、研究者や大学生のみなら
ず、一般の方も多く来られ、大盛況のうちに終了した。

（横山 舞・高橋 伶奈）

企画展

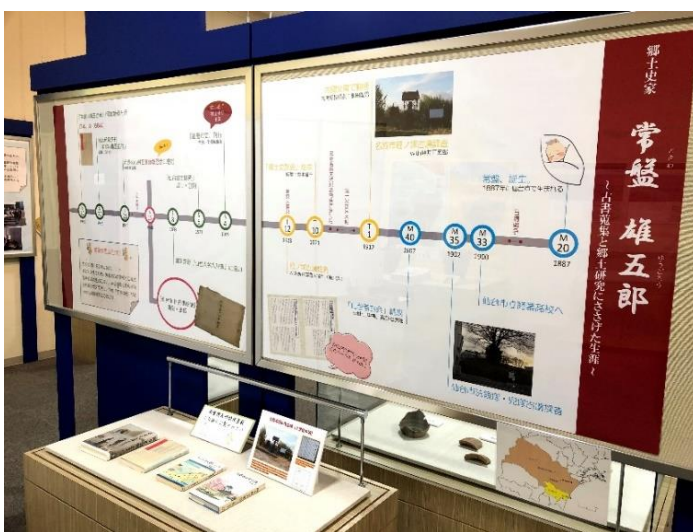
KOREMITE5 「常盤雄五郎と仙台年中行事絵巻」

2019年11月13日～2020年3月31日 東北学院大学博物館

今年度の企画展は、仙台北下の行事や人びとの生活を描いた『仙台年中行事絵巻』、およびこの資料の復刻に尽力した郷土史家・常盤雄五郎に焦点を当てた展示をおこなった。展示内容は、学芸研究員および大学院アジア文化史専攻での開講科目「物質文化資料論」（加藤幸治教授）の受講生を中心に編集・作成した収蔵品図録『KOREMITE』Vol.5の内容をベースにしたものであり、展示の企画・製作も同様のメンバーで実施した。

『仙台年中行事絵巻』には「正月風俗之図」「東照宮祭礼之図」など12の場面から構成される絵画資料で、原本は仙台市博物館が所蔵している。今回当館で展示した資料は1940年（昭和15）の復刻版であり、近代の蔵書家で郷土史家である常盤雄五郎氏により手掛けられた。『仙台年中行事絵巻』は、江戸時代の仙台北下の様子を伝えるとともに、近代の仙台で展開された郷土史家による活動の一端を示す資料として重要な価値をもっている。

本展示では各場面の内容、復刻の際に付録として取り上げられた「仙台領高名競角力見立」、および常盤雄五郎氏の生涯について紹介した。詳細については当館の図録『KOREMITE Vol.5』を参照されたい。（石澤夏巳）



常盤雄五郎の紹介コーナー



正月風俗之図（部分）

博物館実務実習（館園実習）の成果展示

ようこそ美しき美の世界へー縄文土器ー

2019年8月9日～11月9日 東北学院大学博物館

2020年2月14日～3月31日 東北学院大学博物館

毎年恒例の、博物館実務実習（館園実習）の学習成果の発表展示を実施した。夏季期間の実習の成果展は9月に、春季の成果展は2月から3月にかけて、それぞれ縄文土器（大木式土器）の見分け方を解説する展示として実施した。



コーナー展示

重要文化財建造物 デフォレスト館について

9月14日～11月16日 東北学院大学博物館

東北学院史資料センター、東北学院大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」の主催シンポジウム「重要文化財『デフォレスト館』の価値について」(9/28)にあわせ、工学部櫻井一弥教授ゼミの協力により、本学創立に尽力した宣教師デフォレストの住居として使われた洋館「デフォレスト館」(明治20年頃建造)の紹介展示を行った。展示では櫻井ゼミの学生が製作・修復したデフォレスト館の模型、およびそのメイキング映像が展示され、来観者の興味を惹いていた。



歴史学科各ゼミの活動紹介コーナー展示

「中世の霊場と信仰－松島の世界」

日本中世史七海ゼミナール 2019年8月8日～

「木簡からいにしえを探る－長屋王家木簡を中心に」

日本古代史永田ゼミナール 2019年12月19日～

「古墳を旅する－考古学辻ゼミナールの古墳調査－」

考古学辻ゼミナール 2020年3月3日～

常設的な展示活動の一環として、毎年歴史学科のゼミ活動にかかわるコーナー展示を開催している。今年度は七海ゼミの松島海底板碑群の調査成果、辻ゼミのこれまでの古墳発掘調査、永田ゼミの木簡レプリカ製作の成果店などをおこなった。



展示設営(板碑)



木簡レプリカ展

オープンキャンパス特別展示

2019年6月22日、2019年10月19日

東北学院大学博物館

6月22日および10月19日に開催されたオープンキャンパスでは、高校生やご家族の方々を対象に、本学歴史学科の活動やゼミ紹介するとともに、歴史学科学生の1日の生活の様子、大学生のカバンの中身など学生生活を紹介するイベントを開催した。

(櫛田公平)



文化財レスキュー展（館外展示）

「鯨まつりがはじまった頃 週刊鮎川」（第21回文化財レスキュー展）

7月28日～8月31日 石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館

8月19日～9月13日 東北学院大学博物館

「絵本『おしかがえし』原画展」（第22回文化財レスキュー展）

10月21日～11月17日 宮城県慶長遣欧使節ミュージアムサンファン館

「アユイロー鮎川小学校との共同調査成果展」

2020年1月1日～2月24日 牡鹿半島ビジターセンター

歴史学科民俗学ゼミナール（加藤幸治教授）のゼミ活動として長年取り組んできた「文化財レスキュー展」最終年度の活動として、上記三つの展示会を開催した。

「鯨まつりがはじまった頃 週刊鮎川」展（リボンアートフェスティバル2019）の関連企画として開催、は、架空の週刊誌『週刊鮎川』の記事に見立てたスタイルで、加藤ゼミの調査活動として整理をおこなった1950年代の古写真450点のなかから約20点を厳選し、地域の人びとへのインタビューや解説記事と合わせてパネルを製作するという、ユーモアにあふれた展示をおこなった。

「絵本『おしかがえし』原画展ーぼくがであったむかーしむかし」は、加藤ゼミでの文化財レスキュー活動の一環として制作した絵本『おしかがえし ～ぼくがであったむかーしむかし～』の原画展。民俗学ゼミナール出身のイラストレーター蘓武美佳さんが描いた原画を展示した。

特別展「アユイロ」では、同じく加藤ゼミがすすめてきた、石巻市立鮎川小学校とのコラボによる調査成果をもとに、大学生と小学生が共同で小学校に開設した「鮎小ミュージアム」での展示を牡鹿半島ビジターセンターに巡回して公開した。



日本近世史菊池ゼミ／館外展示

「新浜で繋がる自然・ひと・歴史」展

2019年2月25日～5月25日 大学博物館

2019年9月11日～29日 せんだい3.11メモリアル交流館

昨年度開催した歴史学科菊池ゼミおよび教養学部教養学科平吹ゼミの共催展示。宮城野区東部の新浜集落に続いてきた暮らしの伝統を振り返る協同研究の成果を紹介した。

資料の収集

2019年度は2件の資料を新たに受け入れた。

●勝平得之版画資料

勝平得之（かつひらとくし 1941～1971）は、秋田に生まれ、故郷秋田をはじめとする東北の情景をテーマに生涯にわたって作品を作り続けた木版画家。ナチスからの迫害を逃れ日本に滞在していたブルーノ・タウトによって紹介され、その作品はヨーロッパでも知られている。

当館では東北の民俗を描いた勝平の版画を以前から収集しており、2019年度は庄内三十三番所巡礼を描いた作品を新たに収集した。

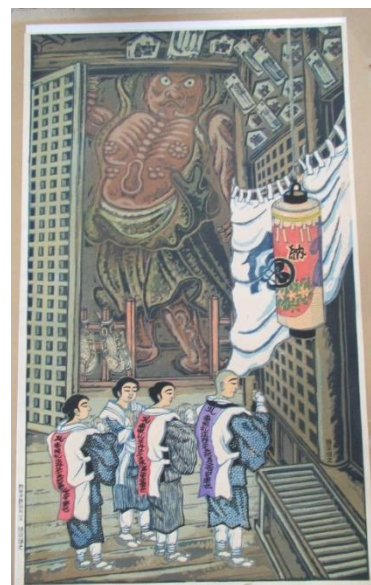
●明治期仙台関係古写真資料

仙台の歴史に関する資料として、明治期の古写真を3件、古書店から購入した。

一つ目は「仙台名所」と題した11枚の手札判写真で、明治20年代末～30年代頃のものと思われる。仙台城大手門、旧養賢堂を利用した宮城県庁、鉄橋に掛け替えられた大橋などが題材とされている。

二つ目は、栗野伝之丞関係写真22点。栗野伝之丞という人は仙台藩出身の学者で、伊能嘉矩との共著で出版した『台湾蕃人事情』（1900年）が知られている。仙台陸軍幼年学校時代の各種の記念写真が多く、仙台の教育史資料として収集した。

三つ目は、本学3校祖の一人シュネーダーの送別記念写真である。



館蔵資料の点検・調査

博物館館内収蔵庫の所在確認・点検およびデータ化

所蔵資料の現状確認を目的に、夏季休業期間中に、本館収蔵庫内キャビネット収納資料の総点検作業を実施した。またこれとは別に、10月豪雨で被災した6号館地階収蔵庫に保管されている民具資料についても、水損した資料を中心に台帳との照合・資料点検作業に着手している（次頁参照）。これらの作業によって、台帳への登録情報とのズレや未登録の情報の補足などをも行っている。作業は2020年度にも継続して実施している。

館蔵資料の保存対策

2020年3月20日から23日にかけて、本館収蔵庫の燻蒸作業を実施した。実施に際しては、10月の豪雨で浸水した6号館地階倉庫に保管されていた大型の民具資料をも持ち込み、燻蒸をおこなった。またこれとは別に、同じく10月豪雨によって被災した水損資料等の虫害対策やカビ拡大防止を目的に、業務用フリーザー設備を1台導入し、資料保存のための設備整備をおこなった。

台風19号豪雨にともなう水損資料への対応

2019年10月25日に東北および関東地方を襲った台風19号に伴う豪雨に際し、本学学内でも一部建物への浸水被害が発生した。当館では土樋キャンパス6号館の地階スペースを文学部歴史学科と共同で収蔵庫として利用しているが、この部屋にも建物内の配管を伝って多量の雨水が入り込んで数cmの水がたまり、ここに収納していた考古・民俗資料など一部の資料が水に濡れてしまった。

このため被害発生後、歴史学科考古学ゼミナールや東北学院大学考古学研究部の学生たちと共同で排水作業と資料の一時避難をおこなうとともに、水損した博物館所蔵資料のレスキュー活動をおこなった。水損資料は7号館2階、その後7号館5階の空き教室へと運び出した。資料はその後、定期的に資料を観察し、カビの疑いがあるものはエタノールを噴霧して殺菌するなどの作業をしながら、サーキュレーター等を駆使して数ヶ月間にわたり自然乾燥させた。

乾燥後は、比較的小型の木製品や繊維製品・紙製品は、調湿剤と共に密閉性の高いビニール袋などに入れ、業務用フリーザーに入れて3週間から1ヶ月程度、マイナス30度の設定で冷凍した。これは、低温による殺虫効果を狙った方法で、比較的安価でも安全な処理方法として博物館や文書館などの現場で使われている方法である。約3週間から1ヶ月間程度凍らせた資料は、こんどは段階的に冷凍温度を上げ、少しずつ常温に戻し、そこでようやく博物館に戻していった。また材質や大きさなどの関係で冷凍殺虫が適さない資料については、定例の燻蒸作業の一環として処理を行った。

なお水損した資料の多くは、かつて民俗学ゼミナールの活動の中で東北を中心とする全国各地から採取した民具資料である。今回のレスキュー作業に際しては、以前に作成したこの資料群の台帳との照合作業をあわせておこない、新たに梱包等し直すなどの作業も実施している。またその過程で気づいた資料番号のズレや不足している記述内容の補足なども適宜おこなっている。

作業は2020年度にも継続しており、水損資料のケアが終了したあとはさらにそれ以外の民具資料全体の総点検作業を行う予定である。これらの作業を通じて、未整理・未公開資料の情報公開を少しずつすすめていくことが今後の課題である。



地下倉庫



別室で自然乾燥中の民具資料



冷凍殺虫のため資料を密封

大学祭—木簡づくりワークショップ

2019年10月19日～20日

東北学院大学博物館では、毎年本校の大学祭である土樋キャンパス祭（六軒丁祭）に参加している。今年度も博物館では土樋キャンパス祭に参加した。大学祭当日は、博物館を無料で開館し、大学祭のイベントの一つであるスタンプラリーに参加した。また、博物館ではワークショップを行った。

大学祭では、通常の展示のほかにスタンプラリーに参加したが、この企画はほかの団体も参加しているものである。スタンプラリーに参加している来館者には、問題を解いてもらい、正解者にはスタンプを押す、というものである。

また、今年度はワークショップで「木簡作り体験」を行った。ワークショップは学芸研究員が中心となって企画をしている。参加したことが記念になるようにと、ワークショップ後に手元に残すことのできる木簡作りを選んだ。今回は、参加者には古代人になったつもりで木簡を作成してもらい、古代について知ってもらおうという企画だった。当日、参加者は各々考えた言葉を書いたり、実際の木簡の写真を手本に作成していた。

(小林美夏)



ワークショップの様子



ミュージアム・ユニバース2019～すてき・ふしぎ・おもしろい

-板碑を使った拓本体験ワークショップ-

2019年12月14(土)・15日(日)

12月14(土)・15日(日)の両日、せんだいメディアテークを会場に「仙台・宮城ミュージアム・アライアンス」(SMMA)の年末恒例行事「ミュージアム・ユニバース～すてき・ふしぎ・おもしろい」がおこなわれ、加盟館である当館も参加した。

今年は、12月15日に「体験のひろば」として「石碑の拓本に挑戦！～大学生と実習体験」という体験コーナーを開設した。七海雅人教授(博物館長)が学生とともに長年調査に携わってきた、松島・雄島の海底から発掘した板碑(いたび)の実物を会場に運び込み、実物の文化財から拓本をつくるという体験ワークショップを開催し、当日は、子供から年配の方々まで合計100名近い方が参加して、熱心に拓本採りに取り組んでくれた。

またSMMA参加各館の魅力を紹介するミニ展示「展示の広場」でも、学芸研究員の大学院学生が作り上げたミニ展示を行った。コンセプトは「学生+博物館=????」。つまり大学博物館を舞台に学生たちが博物館活動を行うことで何が生まれるのか?という点をテーマとし、博物館館園実習やゼミでの学習活動をもとに大学博物館で開催した近年の様々な展示を「すてき部門」「ふしぎ部門」「おもしろ部門」などに分けて紹介したり、大学博物館での館園実習で実習学生たちが作成した独創的な展示パネルを紹介したりと、学芸研究員たちが自分たちなりに考える「大学博物館らしさ」を押し出した展示となった。

さらに会場では、学生たちの発想にもとづく「東北学院大学博物館キャラクター総選挙」の投票所が設けられ、多くの来場者が、博物館の活動の過程で学生たちによって生み出されてきた様々な個性的なキャラクターに目を留め、投票してくれた。大学博物館の活動や展示内容に市民の関心をつなげていく「仕掛け」を生みだし、育てていこうとするこうした活動にも、多少なりとも興味を持ってもらえたのではないと思われる。

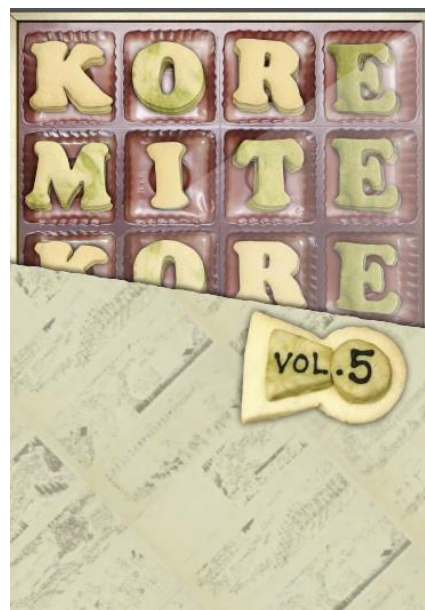


収蔵資料図録『KOREMITE』Vol.5

館蔵のコレクションを紹介する収蔵資料図録として、2015年度以降『KOREMITE』（コレミテ）を編集・発行している。2019年度は第5集として、大学院文学研究科アジア文化史専攻の大学院生（「物質文化資料論」履修生）により、『仙台年中行事絵巻』を紹介する冊子を発行した。

収録資料は企画展「常盤雄五郎と仙台年中行事絵巻」において展示を行った。展示と展示資料の概要は該当頁を参照されたい。なお当該冊子は大学博物館で無料配布するほか、下記アドレスでも公開している。

https://www.tohokugakuin.ac.jp/facilities/museum/pdf/koremite_05.pdf



特別展図録「開 首長の棺」の作成・発行

特別展「開 首長の棺」の開催にあわせ、灰塚山古墳の発掘調査成果と辻ゼミナールの活動を紹介する冊子を作製した。なお当該冊子は大学博物館で無料配布するほか、下記アドレスでも公開している。

<https://www.tohokugakuin.ac.jp/facilities/museum/pdf/shuchounohitsugi.pdf>



ツイッターによる情報発信

2018年4月より、Twitterの東北学院大学博物館公式アカウントを開設し、博物館の活動に関する様々な情報を積極的に発信している。2019年度のツイート階数は合計303回に及んだ。

https://twitter.com/tgu_museum



東北学院大学博物館キャラクター総選挙の実施

2019年10月15日～2019年12月31日

開館してから10年の間に各展示のイメージキャラクターとして登場した7キャラクターによる総選挙を開催した。投票は①館内展示室および②12月5,6日にせんだいメディアテークで開催された「ミュージアム・ユニバース」の会場に投票箱を設け来場者に投票してもらうとともに、インターネット上にも専用サイトを設けて投票を募った。

総投票数220票で、その内46票を獲得した『ゆる首長』が1位に選ばれた。『ゆる首長』には、2020年年度の当館広報大使として、博物館の宣伝活動に活躍してもらうこととなった。

(櫛田公平)

投票結果

| 順位 | 名将 | 票数 | 備考 |
|----|--------|-----|---|
| 1位 | ゆる首長 | 46票 | 考古学ゼミで調査した灰塚山古墳（福島県喜多方市）の被葬者をイメージしたキャラクター。 |
| 2位 | じゅうぞう | 41票 | 考古学ゼミで調査した灰塚山古墳（福島県喜多方市）出土青銅鏡の文様からイメージしたキャラクター。 |
| 3位 | おりせちゃん | 34票 | 境澤家文書に登場する、境澤家6代当主の三女「おりせ」をイメー。 |
| 4位 | いなり | 28票 | 「仙台年中行事絵巻」に登場するキツネのキャラクター |
| 5位 | いたびくん | 26票 | 中世史ゼミで調査した松島の板碑をイメージ |
| 6位 | どきのすけ | 24票 | 縄文土器をイメージしたキャラクター |
| 7位 | みんぞくん | 21票 | 民俗学ゼミが長く調査をおこなってきた捕鯨のまち鮎川の漁師をイメージ。ゼミの教授がモデル？ |



博物館実務実習

実務実習として 2018 年度は館園実習履修者 76 名中 40 名の実習を受け入れ、博物館資料の扱いから展示の企画、模擬展示などの制作をおこない、またその成果を公表する展示会を開催した。

学部生の学芸員教育・専門教育

博物館実習(担当教員:佐藤敏幸・佐々木和博)の履修生をはじめ、考古学・民俗学実習など専門科目の履修学生が展示作業などに授業の一環として参加し、実践的な実習の機会を提供した。

大学院生の学芸員教育

大学院生を学芸員としてスタッフに加え、展示資料の準備や基礎データの作成、展示作業・来館者への解説などをおとして学芸員や研究者として必要な実務経験の機会を提供した。



利用実績 RESULT

東北学院大学博物館入館者数一覧 2019年度

| 月 | 開館日数 | 有料入館者数 | 無料入館者数 | 小計 | 開館からの延人数 |
|----|------|--------|--------|-------|----------|
| 4 | 24 | 15 | 29 | 44 | 15,507 |
| 5 | 22 | 31 | 268 | 299 | 15,806 |
| 6 | 25 | 47 | 348 | 395 | 16,201 |
| 7 | 26 | 50 | 140 | 190 | 16,391 |
| 8 | 18 | 7 | 11 | 18 | 16,409 |
| 9 | 23 | 11 | 70 | 81 | 16,490 |
| 10 | 25 | 6 | 234 | 240 | 16,730 |
| 11 | 24 | 15 | 182 | 197 | 16,927 |
| 12 | 21 | 5 | 113 | 118 | 17,045 |
| 1 | 22 | 9 | 9 | 18 | 17,063 |
| 2 | 19 | 9 | 6 | 15 | 17,078 |
| 3 | 21 | 12 | 8 | 20 | 17,098 |
| 合計 | 270 | 217 | 1,418 | 1,635 | |

無料開館日入館者数

| | | |
|-------------|------------------|------|
| 創立記念日 | 5月15日(水) | 13名 |
| 後援会総会 | 5月25日(土) | 128名 |
| 学部オープンキャンパス | 6月22日(土) | 211名 |
| 大学祭 | 10月19日(土)～20日(日) | 48名 |
| 東北文化の日 | 10月26日(土) | 15名 |
| 冬のオープンキャンパス | 12月7日(土) | 35名 |
| 公開クリスマス | 12月13日(金) | 3名 |

※卒業式 3月24日(火)は 中止

授業等での博物館利用件数・人数

| 月 | 授業 | 人数 | 月 | 授業 | 人数 |
|---|----|-----|----|----|-----|
| 4 | 6 | 54 | 10 | 11 | 125 |
| 5 | 1 | 9 | 11 | 1 | 7 |
| 6 | 6 | 60 | 12 | 5 | 62 |
| 7 | 4 | 39 | 1 | 0 | 0 |
| 8 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 9 | 7 | 77 | 3 | 0 | 0 |
| 計 | 41 | 433 | | | |

施設見学の中学・高校一覧(25件)

| 学校名 | 月 日 | 人数 |
|-------------|-----------|-----|
| 鳴子中学校2年生 | 4月24日(水) | 5 |
| 東向陽台中学校2年生 | 4月25日(木) | 6 |
| 仙台高校 | 4月25日(木) | 90 |
| 小牛田中学校2年生 | 5月14日(火) | 5 |
| 飯野川中学校2年生 | 5月24日(金) | 5 |
| 相馬東高校1年生 | 5月30日(木) | 80 |
| 九里学園高校2年生 | 6月21日(金) | 10 |
| 山形学院高校2年生 | 6月26日(水) | 41 |
| 築館高校 | 6月28日(金) | 20 |
| 安達高校2年生 | 7月10日(水) | 85 |
| 岩ヶ崎高校 | 7月13日(土) | 16 |
| 九里学園高校2年生 | 7月29日(月) | 10 |
| 光南高校1年生 | 9月17日(火) | 23 |
| 和洋女子高校 | 9月18日(水) | 10 |
| クラーク記念国際高校 | 10月4日(金) | 16 |
| 明倫中学校3年生 | 10月4日(金) | 4 |
| 最上中学校3年生 | 10月10日(木) | 6 |
| 神町中学校2年生 | 10月10日(木) | 26 |
| あさか開成高校2年生 | 10月18日(金) | 45 |
| 花巻東高校2年生 | 10月23日(水) | 100 |
| しらかし台中学校2年生 | 10月31日(木) | 6 |
| 北角田中学校2年生 | 10月31日(木) | 6 |
| 松島高校1年生 | 11月8日(金) | 168 |
| 南陽高校2年生 | 12月10日(火) | 47 |
| 村田高校1年生 | 12月10日(火) | 13 |

見学学校の県別内訳

| 県名 | 青森 | 秋田 | 岩手 | 山形 | 福島 | 宮城 | 北海道 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 人数 | 0 | 1 | 1 | 7 | 4 | 12 | 0 |

団体見学一覧(1件)

| 団体名 | 人数 |
|----------|----|
| 進学指導者懇談会 | 2 |

運 営

東北学院大学博物館運営委員会

博物館の運営に関する重要事項を審議するため、東北学院大学博物館運営委員会が設置されている。2018年度は、2回にわたり議題は下記の通りである。

第1回委員会 2019年5月23日（木）開催（8号館第3会議室）

- 議 題 1) 2019年度事業活動（案）について
2) 2019年度博物館館園実習（案）について
3) 2019年度学芸研究員採用（案）について
4) 2019年度無料開館日（案）について ほか

第2回委員会、 2019年11月28日（木）開催（5号館第4会議室）

- 議 題 1) 2020年度事業計画（案）について
2) 2020年度予算（案）について ほか

2019年度 博物館運営委員会委員名簿（2020年3月現在）

| | | |
|-------|---------|-------------------|
| 博物館長 | 七 海 雅 人 | （文学部歴史学科教授） |
| 文学部長 | 村野井 仁 | （文学部教育学科教授） |
| 学務部長 | 加 藤 健 二 | （教養学部人間科学科教授） |
| 図書館長 | 佐 藤 義 則 | （文学部歴史学科教授） |
| 総務部長 | 菊 地 祐 一 | |
| 歴史学科長 | 河 西 晃 祐 | （文学部歴史学科教授） |
| 経済学部 | 黒 坂 愛 衣 | （経済学部共生社会経済学科准教授） |
| 工学部 | 櫻 井 一 弥 | （工学部環境建設工学科教授） |
| 教養学部 | 津 上 誠 | （教養学部言語文化学科教授） |

利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

入館料：一般200円（減免措置あり）

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームcoming・デー等の館長の定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

電話番号：022-264-6920

FAX：022-264-6917

交通案内



2019年度 東北学院大学博物館年報 vol.11

編集・発行 東北学院大学博物館

発行日 2020年11月1日